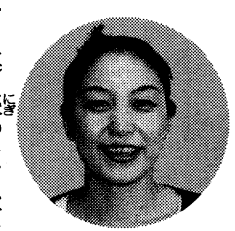
異文化と心通わせ ⑳

村田　佳子

心に残るお土産

今年もお盆の時期になる～い出迎え」が夏休みりました。皆さんの中にも、お子さんやお孫さんが帰省し、お盆を一緒に楽しまれている方がいらっしゃると思います。庄内空港の1階出口、そして駅は、久しぶりの再会を楽しみに待つ人たちでにぎわっていることでしょう。この時期の帰省は、お正月の帰省とも一味違い、短パンやビーチサンダルを履いた家族の「ゆ

帰る側としては、帰省前のお土産を選ぶときから夏休み気分が始まるものです。夏休み気分を味わっている方々で、空港、駅はもちろんのこと、デパートのお菓子売り場なども連日賑わいをみせています。「おばあちゃんとぉ、○○おばさんとぉ！…」などと、甘いものが好きな家族のことを思い出したり、買ったおお土産が人数分あるかどうか、指折り数えたりしている様子をこの時期になるとよく見かけます。



仕事や研修で日本へ来た外国の方々もお土産を選ぶ時には、忙しい日常から離れ、ちょっと家族のことを思い出して、笑顔がこぼれるようです。外国へのお土産と言えば、和風の小物やお箸などはお土産の定番ですが、意外にも日本人が日常使っているものが彼らにとってはユニークなもの、便利なものとして話題となるようです。知人のルーマニア人女性は「これこれ」といって靴を脱いで、彼女のお気に入りの日本製品を見せてくれました。五本指靴下でした。五本指の靴下は日本に来て初めて見たそうです。カラフルな指を動かしながら見せてくれたのがチャーミングでした。数カ月の滞在期間中に見つけた快適グッズの一つだったそうです。帰国したら友人たちにも贈りたいと話していました。

数年前の話になります。モルディブというインド洋にある島国から来られた研修生からいただいたお土産で思い出深いものがあります。その方は地図や測量の研修のために10カ月ほど滞在していたのですが、途中、体調を崩したため病院へお連れする際にご一緒しました。体調が回復した数日後、彼がオフィスに持ってきてくれたのはツナ缶でした。そして「モルディブは日本のような開発された国ではないけれど、マグロ漁やその加工が有名で、このツナ缶は自分の国にとって誇れる産業です。食べてください。そしてモルディブに来てください」と、わざわざ観光局から取り寄せたとみられる日本語で書かれたモルディブの観光案内を添えて、プレゼントしてくれました。

そのツナ缶は、缶に文字がプリントされている日本のものとは違い、無地の缶にゆるい青い紙が巻かれているというシンプルなものでした。改めて考えてみると、缶詰は結構重いものです。来日するときの荷物の重量制限は20㌔です。なるべく重いものやかさばるものは省いてパッキングするのが一般的ですが、彼は日本で知り合った人たちに贈ろうと思って、きっといくつかバックに詰めてきてくれたのでしょうか。そんな心遣いがうれしくて、そして開けて食べてしまうのがもったいなくて、しばらくの間、部屋に飾っておきました。「『これは私の国で誇れる産業だから、どうか食べてください』と私にも言えるかな」、「私は日本のことを全然知らないな」と考えさせられたのを覚えています。（鶴岡市出身、コーチング・システムズ）